

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
21	遠藤 盛正（14）	<p>1. マイナンバーカードの普及状況と啓発について</p> <p>9月に入り、庁舎2階のマイナンバーカード交付窓口では、多くの市民を見かけるようになりました。現在、商業等で放映されている、上限5000円分のマイナポイント還元の魅力を感じて、マイナンバーカードの申請やマイナポイント手続に見えているようです。</p> <p>当初低迷していた普及率もここに来て伸びが見られるようですが、一時的なブームで終わらせないためにも、現在の普及状況と今後の富士市の取組についてお尋ねいたします。</p> <p>富士市では、これまで3次にわたり情報化計画を策定し、積極的にICTを活用した便利な市民サービスに取り組んできました。しかし、現在の情報過多な社会の中で、安全で安心なサービスと言われていることに、不安を感じる市民が多いことも見過ごせないと思います。</p> <p>今回は、マイナンバーカードの普及を通じて、安全と安心を行政はどのように市民に示していくのかについて改めて検証するものです。</p> <p>マイナンバー制度は、平成28年1月から開始され、経済財政運営と改革の基本方針2016や日本再興戦略2016においても行政手続の簡素化など、国民生活の利便性向上に向けたマイナンバーカードの利活用拡大に関する検討等を進めることが示されました。マイナンバーカードを活用した技術として、ワンストップサービス、コンビニ交付サービス、プッシュ通知などの行政サービスの向上が期待されるとしていました。</p> <p>富士市としてもマイナンバーカードを基盤としたデジタル社会の構築を進めるのであれば、いま一度、利活用についても市民に周知するべきと考えます。</p> <p>市民にとっての利便性として、幾つか例を挙げますと、在留カードとマイナンバーカードの一体化、運転免許証や各種免許証などとの一体化、公金振込口座の設定を含め、預貯金口座とマイナンバーカードのひもづけ、感染症の感染拡大と災害が併発する事態に備えた災害対応、学校内外における児童生徒の学習ログや健康状態等への活用、生涯にわたる健診、特定健診情報について、マイナポータルなどを活用する等々、決してコンビニで証明書類が取れるだけではありません。印鑑証明書を年に何回も取る人はそうはいないと思います。そこには利便性は見えません。</p> <p>マイナンバー制度が開始してから4年半以上が経過する中、市民の多くがカードを持つ便利さを感じているのは行政側だけで、市民にはマイナンバーカードをつくる意味、便利さが伝わっていないのではないのでしょうか。</p> <p>IT化、デジタル化と聞くと何か便利そうだけど、決して安全・安心できるものではなく、怖い、危ない、難しいというイメージが先に来てしまうのではないのでしょうか。</p> <p>現在、国が進めているマイナポイント事業や新型コロナウ</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
21	遠藤 盛正（14）	<p>イルス感染症対策等の施策には、市民も大いに興味があるようですので、この機会を捉えて市独自のマイナンバーカードの普及策を打ち出してはいかかと思えます。</p> <p>そこで、市民に安心して利用していただけるマイナンバーカードとなるよう、以下質問いたします。</p> <p>(1) 富士市のマイナンバーカードの推移をどのように分析しているか。</p> <p>(2) 改めて、マイナンバーカードの安全性を伝える施策はあるか。</p> <p>(3) 富士市として、これから考えられる実現性のある、マイナンバーカードの活用事例はあるのか。</p> <p>(4) マイナポイントは家族全員を対象としているが、小中学生や高校生にマイナンバーカードを普及させることは考えられないか。</p>	市長 及び 担当部長